

4月30日(火)

イエス様の神の家を思う熱心さ

聖書朗読 マルコの福音書 11:15:19

「『わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる』と書いてあるではありませんか。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしたのです。」

マルコ 11:17

何かに夢中になったことがありますか。イエス様は宮の中で起きていることに関して真剣な思いで向き合っていました。イエス様は、ご自分がこの世を去って御父のもとに行かれる時が迫っているのを、また、多くの者たちがそのことを理解していないことをご存じでした。エルサレムに上る途上で、『ああ、エルサレム、エルサレム。』と嘆かれました。エルサレムに着くとすぐイエス様は宮に入られ、礼拝と祈りの家であるべき宮で売り買いが横行しているのをご覧になりました。両替や生贄^{いけにえ}の動物の売買等は、宮の中でなくとも、どこでもできることでした。宮で商売していた者たちは、貧しい人々をカモにしていたのです。イエス様は激昂して止めさせました

イエス様は人々に、とくに祭司や律法学者たちに、ご自分が神の御子であり、イエス様を通してでなければ、だれも御父のみもとに行くことはできないということを知ってほしいと願っていました。イエス様はただ感情的に怒られたのではなく、イエス様は一人一人を深く愛し、すべての人に神様を知ってもらいたいと思っておられました。熱情は、人々をキリストに導くために用いるならば、素晴らしい賜物です。

私たちの情熱がどこに向けられているかをチェックする必要があります。神様にご栄光を帰すためですか、自分の名誉と正当化のためですか。

讚美歌 461 主われを愛す

祈り お父様、私たちの熱心さを悪しきものではなく、善きものに用いることができますように。熱心にあなたをほめたたえることができますように。

イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 ラボック / シェリー・リームズ

5月1日(水)

捨てられたけれど、受け入れられた

聖書朗読 マルコの福音書 12:1~12

こういうわけですから、キリストが神の栄光のために、私たちを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れなさい。 ローマ15:7

拒絶にはいろいろな形があります。小さい子どもが仲間外れにされて一緒に遊んでもらえない。高校生が志望する大学入学試験に落ちる。勤勉な従業員が昇進を見送られる。夫が離婚を申し出る、等々。

だれでもみな拒絶感を抱いたことがあるでしょう。時には愛し信頼している人からさえも拒絶されたと感じることがあります。辛いです。失望して、人生観全体が暗くなってしまうかもしれません。

マルコ12章のたとえ話には、イエス様でさえも拒絶されたことが、しかも救い主を待ち望み迎えるようにという教育を受けて来た祭司長、律法学者、長老たちに拒絶されたことが書かれています。イエス様もきつとがっかりされたでしょう。でも、イエス様はご自分が『さげすまれ、人々からのけ者にされ』(訳注:イザヤ 53:3)ることをご存じでした。

拒絶されるのは辛いです。神の民が、神様の愛を拒まれたり、のけ者にされたりすることは決してありません。めぐみ深い神様は、私たちを、ご自分が造られた素晴らしい存在と見てくださいます。神の民は、『人には捨てられたが、神の目には、選ばれた、尊い』(ペテロ I 2:4)者です。同じように、私たちもイエス・キリストの恵みによって救われているのです。神様が私たちを受け入れてくださると知ることは何という慰めでしょう。神様は決して私たちを捨てないと信じ、心の平安を得ましょう。神様の変わることのない愛とお約束を信じましょう。

讚美歌 520 静けき河の岸辺を

祈り 神様、あなたをほめたたえます。あなたは私たちを愛し、あなたの子どもとして受け入れてくださいました。キリストにある大いなる恵みを感謝します。イエス様のお名前によって。アーメン。

テネシー州 ナッシュビル / ケヴィン B・レイチェル

5月2日(木)

喜んで与える

聖書朗読 マルコの福音書 12:41~44

おおらかな人は肥え、人を潤す者は自分も潤される。 箴言 11:25

二人の息子たちがお金の使い方を学べるようにと、毎週、25セント貨を4枚ずつ、お小遣いとして渡していました。いくらか貯金して、いくらか献金して、いくらか使ってほしいと思っていました。

ある日の教会でのことです。その日、弟息子は25セント貨を2枚持っていました。近くに座っていた友だちは1セントも持っていませんでした。息子はコインを1枚、友だちにあげて、礼拝で二人とも献金かごに入れることができました。海外宣教のために捧げる日が近づいたとき、兄息子は、手持ちの1ドル札をくずさないで、そのまますべてを宣教団に捧げました。私たち夫婦は息子たちがいつでも惜しみなく分け与えることができるようにと祈りました。

神の民の特徴である惜しみなく与える心について教えている聖句を読みましょう。神様が私たちを祝福してくださったように、私たちも与え、分かち合い続けることができますように。

『ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、
心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛して
くださいます。』
—コリントII 9:7

讃美歌 503 春のあした 夏のまひる

祈り お父様、今日の聖書箇所から、他の人たちに教えるだけではなく、私自身も捧げる恵みを実践し続けなければならないことを再確認しました。主よ、あなたが私を恵んでくださったように、私も他の人たちにとって恵みとなれるようにお用いください。周りの人たちの経済的、肉体的、感情的、霊的必要に応えられるように助けてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 アマリロ
ダニー・マイズ

5月3日(金)

晴れ着

聖書朗読 マルコの福音書 14:12~20

弟子たちが出かけに行って、都に入ると、まさしくイエスの言われたとおりであった。それで、彼らはそこで過越の食事の用意をした。 マルコ 14:16

私はブーツにジーンズという恰好の文化の中で育ちました。日曜礼拝でもその恰好でした。でも、大勢の薄汚いカウボーイたちが教会にいる様子を思い浮かべないでください。毎週土曜日の夜には、靴ずみやぼろきれやブラシが入っている靴磨き用道具箱を取り出しては、日曜の朝に備えて、ブーツを念入りに磨き上げたものです。穴やつぎあてなどない、物干し綱で干す時にしわを伸ばし、折り目がびしっと付いている、一番良いジーンズを履きました。日曜日の礼拝に行くために、私たちは土曜日にいろいろと準備したのです。

イエス様は弟子のうちふたりを送って、主が守られる最後の過越の食事の用意をさせられました。それはまた、最初の主の食卓でもありました。毎年、過越の祭りは重要なものでしたが、この年の過越は特別重要でした。ただその重要性は後になって初めて理解されました。

毎週の主の食卓は大切に、準備が必要です。日曜日のために日々の生活においてどのように備えていますか。何を着て行こうかと考えるのも準備のうちですが、ブーツとジーンズ以上のことも考えましょう。日曜日のために、私たちの心を日々整えましょう。

讃美歌 58 神よみまえに

祈り ご在天の父なる神様、私たちを受け入れてくださって、ありがとうございます。私たちの纏う粗末なものを最上の美しいものに替えてくださって感謝します。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 グランベリー
クリス・フリッツェル

5月4日(土)

ゲツセマネに出かける前の賛美

聖書朗読 マルコの福音書 14:22~26

おまえは、私をひどく押して倒そうとしたが、主が私を助けられた。

詩篇118:13

イエス様はゲツセマネに出かけようとしていらっしゃいました。そこで、十字架上で立ち向かわれる霊的な苦悩という奈落の底を覗き込むことになることをご存じでした。それでも、イエス様は食事の最後に、友である12弟子とともに賛美の歌を歌われました。イエス様は、気持ちを落ち着かせるために一人で出かけた時、恐怖から逃れるために気を紛らわせたりというようなことはなさいませんでした。心が乱れていて、今年は過越の祭りを祝えないと弟子たちに言うこともできませんでした。でも、イエス様は、過越の食事の最後に歌うことが伝統になっている詩篇118篇の賛美を弟子たちとともに歌われました。弟子たちはこれから何が起こるか分かっていませんでしたが、イエス様はご存じでした。それでも、イエス様は、過越のときを、食事を、賛美を、弟子たちとともに分かち合いたいと思われたのです。

私が恐怖や恐ろしい出来事や悲しみに直面するとしたら、神様を信ずる信仰を同じくする友と讃美歌を歌おうとするでしょうか。霊的な家族の中心にわざわざ身を置こうとするでしょうか。それとも、一人になろうとするでしょうか。神様は、聖霊を通して直接私たちに力と慰めを与えてくださいます。一方で、私たちを支えるために友だちの腕を借りて倒れないようにされるということもあります。私は神様が差し伸べてくださっている優しい助けをすぐに受け入れているでしょうか。助けを必要としている人々に対して、神様の御手になる用意ができていますでしょうか。

讃美歌 403 神によりていつくしめる

祈り 主よ、悩みと苦しみのときに、友と賛美の歌を歌われた、あなた様の例に倣うことができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 ラボック / リサ・ラングフォード

5月5日(日)

なしたまえ^な汝が^{むね}旨

聖書朗読 マルコの福音書 14:32~42

天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。

イザヤ 55:9

イエス様はご生涯最後の24時間をどのようにして耐えられたのでしょうか。イエス様のご生涯は人間一般の生き方とは対極をなすものでした。イエス様は、日々の出来事一つ一つについて、御父のみこころに叶う方を選ぶことによって、十字架に向かう備えをされました。

いつも通りに「私のやり方でやりたい。」と言う代わりに、いつでもへりくだって「わたしの願うことではなく、あなたのみこころのままを、なさってください。」と祈られました。つぶやき不平を言う代わりに、流される血が私たちと御父との和解をもたらすという喜びのゆえに、十字架を耐え忍ばれました。怒り、恨みを抱き、復讐しようとする代わりに、赦されました。

不安や恐怖に負ける代わりに、神様の恵みが敵対する者の間に打ち勝つと予期して、勇敢に自信をもって生き、死なれました。犠牲者のふりをして、不信仰や疑いに負ける代わりに、力と権限を与えてくださる聖霊なる神様を信頼されました。父なる神様の愛と恵みという真実に堅く立ち続けられました。神様の愛と恵みが復活を含めて、あらゆるお約束を果たされると信じていらっしゃいました。

おごり高ぶり、別の方法の方が良いと正当化して、神様の贖いのご計画を回避しようとする代わりに、ご自身をゆだね、明け渡し、神様のご計画に従われました。このようにして、イエス様から盗み、イエス様を殺し滅ぼそうとする敵のあらゆる企みは完全に失敗に終わったのです。

聖歌 295 成したまえなが旨

祈り イエス様、あなたのみこころをなすことができるように、御父を信じ、聖霊に力をいただいて、あなたの道を歩めるように教えてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

ネブラスカ州 ヨーク / バージーA・ニーマン